

# 熱田・宮宿

熱田・宮の周辺は湊町、宿場町、門前町として発展し、神宮を中心に、熱田百寺と称されるほど寺が多く、裁断橋跡などの史跡があり、いにしへの文化・歴史の香りが漂っています。



① 熱田神宮本宮

「熱田さま」あるいは「宮」と呼ばれ親しまれてきた「熱田神宮」は、伊勢神宮に次ぐ由緒ある大宮です。三種の神器のひとつ「草薙神剣」をご神体とし、天照大神、素戔嗚尊、日本武尊、宮貴媛命、建甕槌命の五座の大神を祭っています。約20万の境内には、花が咲いても実のならない「ならすの梅」や弘法大師手植と伝えられる樹齢千年を超える巨大な「楠」など大樹が立ち並んでいます。



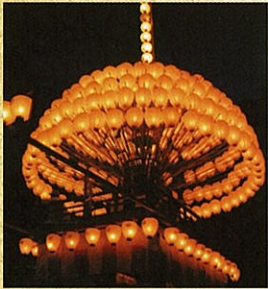
② 信長塀

「信長塀」は永禄3年(1560)織田信長が桶狭間の合戦の戦勝の報賞に奉納したもので、土と石灰を油で練り固め瓦を厚く積み重ねた築地塀です。



③ 熱田神宮南門

境内の熱田神宮宝物館には国宝、重要文化財などが収蔵されています。



④ 熱田祭(尚武祭)

熱田神宮での、最も荘厳に行われる祭典で、正式には熱田神宮例祭と呼ばれ、6月5日に行われています。呼び物の凧灯巻きわらや神宮公園での奉納花火も行われ、毎年、多くの市民に親しまれています。



⑤ 裁断橋址・姥堂

今は埋め立てられている精進川に架かっていた裁断橋は、小田原征伐に出陣し、陣中で病死した堀尾金助(松江城主堀尾吉晴の長男)の母が、なき子の供養のため、架け替えたものです。



⑥ 誓願寺

熱田神宮の西の地帯は、平安時代末頃、熱田神宮大宮司家藤原氏の別館(私邸)がありました。大宮司季範の娘、由良御前は源義朝の正妻で、この館で頼朝を生み、今も頼朝産場の井戸といわれるものが、この寺内にあります。



⑦ 熱田魚市場跡

寛永10年(1633)尾張藩主徳川光友の時代、海辺を埋立てて木之免と大瀬子に4戸づつ問屋を許可し朝夕の2回取引が行われていました。大正・昭和時代にはわが国最大の魚市場として栄えました。



⑧ 東海道道標

宝暦8年(1758)に建立された東海道と佐屋街道との分岐の道標です。



⑨ 熱田荘(市指定文化財)

この建物は、明治29年(1896)に建てられた「魚半」という料亭で、江戸時代の町屋の形式を残しています。



⑩ 時の鐘やぐら

蔵福寺に設置されていた「時の鐘」は、東海道を旅する人や熱田の住民に時刻を知らす役割を果たしていました。戦災で「鐘樓」は焼失しましたが、昭和58年に「宮の渡し公園」内に復元されました。右は常夜灯。



⑪ 堀川

都心を南北に貫通する人工河川。福島正則により開削されました。



**モデルコース**  
 名鉄神宮前駅——地下鉄伝馬町駅——裁断橋址——東海道道標——ほうろく地蔵  
 名鉄神宮前駅——熱田神宮——熱田魚市場跡——熱田荘——宮の渡し公園

**交通ガイド**  
**地下鉄**  
 名古屋 地下鉄東山線 栄 (乗り換え) 地下鉄名城線 金山 地下鉄名城線 神宮西 地下鉄名城線 伝馬町  
**名鉄線**  
 名古屋 名鉄名古屋本線 金山 名鉄名古屋本線 神宮前  
**JR線**  
 名古屋 JR東海道本線 金山 JR東海道本線 熱田